

総合評価

受診施設名	綾東こども園	施設種別	保育所)
評価機関名	きょうと福祉ネットワーク「一期一会」		

令和3年4月22日

総 評	<p>綾東こども園は、地域住民の要望等により昭和28年に開設され、昭和50年に社会福祉法人として認可されました。その後、平成28年より綾東こども園として運営を行っています。また、地域の保育ニーズに応える形で地域子育て支援拠点事業として「たけのっ子くらぶ」や一時預かり事業、綾部市東綾放課後学級等も行っています。</p> <p>立地としては、山々に囲まれ、田んぼのあぜ道や上林川が流れる自然豊かな環境にあり、年間を通じて自然と触れ合うことができます。園内は、開放的であり、訪問調査時も、玄関を入ったときから、あいさつや言葉遣いなど職員の対応が心地よく雰囲気の良さが伺えました。</p> <p>法人理念「子ども一人ひとりを大切にし、保護者から信頼され、地域にも愛される子ども園をめざす」、教育・保育方針「生きる力の基礎を育み、豊かな子どもを育てる」を掲げ、教育保育目標として「りょうとうが育てる子ども像」を明確に示されています。教育保育方針の中に「豊かな感性と創造性を持つ子ども」を掲げておられ、与えられた玩具より、自分たちで自然の中で遊びを見つけ創意工夫を凝らして発展させるために、自然の中で多様なプログラムを準備されています。こうした当園の保育実践から市街地からも通園してくる子供たちもいます。</p> <p>実際の保育現場でも、何もなくても遊べる恵まれた自然環境の中、異年齢を交えての散歩や稲刈り後の田んぼでの経験など地域との関わりを大切に計画され「遊びをみつける目(何も無くても遊べる力)」や創造力、主体性を育む保育が展開されていました。</p> <p>また、畑やプランターで栽培した野菜や梅干しなどを収穫したり、クッキングをすることで、食に興味をもったり苦手な野菜を食べられるようになったり、日常保育の中で食育が実践されていました。</p> <p>運営面では、法人として期待する職員像を明確にしてキャリアパスに基づく年間研修が体系化されています。また、園内研修として通年で臨床心理士を講師に招き、一人ひとりの成長に寄り添った関わりや保護者支援を重点的に学んでおられました。また、ホームページでの情報発信を主とし、園だよりやブログを活用して園の様子等について掲載し、随時更新も行って行っていました。</p> <p>今後もさらに地域に根ざした保育園として、子ども一人ひとりに焦点をあてた質の高い保育実践の持続発展に期待いたします。</p> <p>以下、今回の評価で気づいたことを記載します。</p> <p>ホームページでの情報発信を主とし、園の情報（理念や基本方針、事業計画、事業報告など）を掲載していましたが、第三者評価</p>
-----	--

	<p>結果や苦情解決結果の公表が出来ていませんでした。今回の第三者評価受診を機にページを設けてはいかがでしょうか？</p> <p>災害時対応について防災計画を整備するとともに様々なケースを想定して訓練を実施していました。しかし、法人でBCP計画（事業継続計画）が策定できていませんでした。早急に策定されることを期待します。</p> <p>意見・要望等があった場合は組織的かつ迅速に対応されていました。しかし、マニュアルの見直しが出来ていませんでした。あわせて苦情解決の体制についての記載（重要事項説明書等）には責任者、担当者を分けて明記をする必要があると思われます。</p>
特に良かった点(※)	<p>Ⅱ－２－（３）職員の質の向上に向けた体制が確立されている。 法人として期待する職員像を明確にしています。それをふまえ、京都府保育協会によるキャリアパスに基づく年間研修が体系化されています。新人職員にはクラス担当及びフリー保育士を配置してOJTを行っています。 キャリアパスに基づく研修のほかに園内研修、外部研修も積極的に活用して、職員一人ひとり（非常勤含む）の研修の機会を確保して、参加した研修は履歴で把握しています。 また、職員一人ひとりの目標管理の仕組みが構築されています。振り返りシートによる目標管理制度面談（年に3回）を行い、職員一人ひとりの目標を掲げ、進捗状況の確認を行っています。</p> <p>Ⅱ－４ 地域との交流、地域貢献 理念に地域の方との交流を積極的に行う旨を記載し、自治会や高齢者施設などの行事へ積極的に参加したり、子ども園の夏祭りや運動会には地域の方々に呼びかけを行い相互交流を図っています。 また、地域の高齢者施設や児童養護施設、自治会、消防署、警察等多様な関係機関と連携を図り、地域の活性化に貢献しています。災害時の避難等の対応についても自治会とも協議しています。 日常的に園庭を開放をして、園児と地域の方々とのふれあう機会を設けています。 地域子育て拠点事業として「たけのっこくらぶ」を開催し、子育てについての保護者の相談や悩みに寄り添い支援を行うとともに未就学児童の受け入れも行っています。</p> <p>A－１－（２）④子どもが主体的に活動できる環境を整備し、子どもの生活と遊びを豊かにする保育を展開している。 何もなくても遊べる恵まれた自然環境の中、異年齢交えての散歩や稲刈り後の田んぼでの遊びなど地域との関わりを大切に計画されています。「遊びをみつける目(何も無くても遊べる力)」や創造力、主体性を育む保育が展開されている。とりわけ、幼児クラスでは行きたいところを自分たちで意見を出し計画するなど、主体性を大切にする中で戸外活動が行われています。「お店屋さんごっこ」をテーマにした物づくりや絵画など表現活動も体験できるよう工夫されています。</p>

<p>特に改善が 望まれる点(※)</p>	<p>I-3-(1) 中・長期的なビジョンと計画が明確にされている。 単年度事業計画は、前年度の反省評価を踏まえ策定されていますが、中長期計画は策定されていないため、踏まえたものになっていませんでした。事業所の運営では、事業所理念に基づき中長期的なビジョンが必要とされます。法人として、長期ビジョン（概ね10年）、中期ビジョン（3年から5年）を職員参画のもと策定をし、進むべき道筋を明文化することが望まれます。</p> <p>I-4-(1) 質の向上に向けた取り組みが組織的・計画的に行われている。 保育の質の向上に向けては、様々な課題に対して管理者会議、職員会議（月1回）、クラス代表が出てくるミーティング（週1回）、クラス会議（随時）などを活用して、中間総括、年末総括などPDCAサイクルに基づいて組織的に行われていました。また、行事毎にも振り返りを行い、次年度に反映していました。しかし、定められた評価基準に基づく自己評価は行われていませんでした。また、第三者評価は今回が初受診であり、今後は第三者評価に基づく改善への取り組みを期待します。</p> <p>Ⅲ-2-(3) ②子供に関する記録の管理体制が確立している。 特定個人情報取り扱い規程に保管、保存、廃棄、情報の提供等を明文化していました。しかし、個人情報にかかる開示請求の仕組みがありませんでした。リスク管理の観点からも定まった様式及び手順等の整備が望まれます。</p>
---------------------------	---

※それぞれ内容を3点程度に絞って掲載しています。評価項目毎のコメントは「評価結果対比シート」の「自由記述欄」に記載しています。